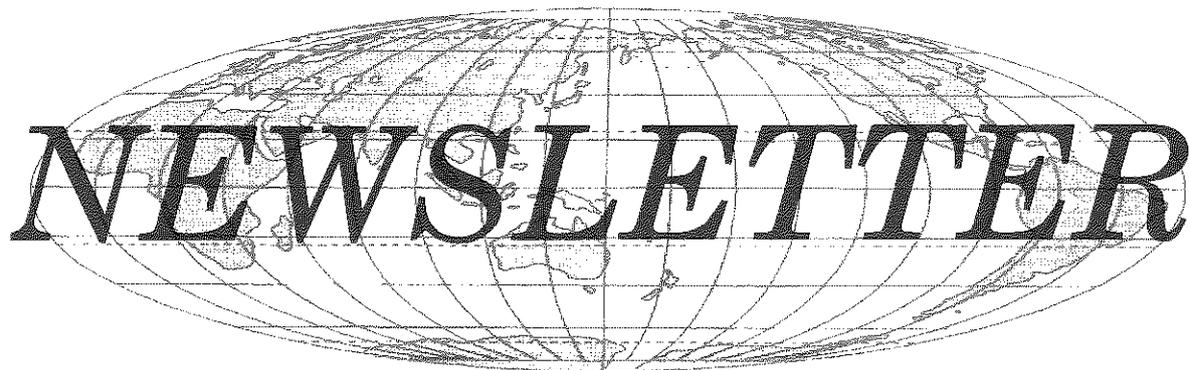


# 岐阜大学国際交流室



No. 19

1994年5月18日

## ● 目次

岐阜大学における国際交流 -この三年を顧みて-	菅原光穂	1
留学生交流の現状と方策	安藤幸雄	2
[特集] 留学生と国際交流室		
架け橋作ります	大崎松美	3
日本語ってどんな言葉ですか -日本語クラスから-	加藤由紀子	5
はじめまして	六郷明美	7
国際交流のための奨学寄附金について		7
お知らせ・平成6年度岐阜大学国際交流室員名簿・編集後記		8

岐阜大学の国際交流に長期にわたり様々な側面から携わり、その発展に尽力された菅原光穂教授（教養部英語、平成三～五年度国際交流委員会委員長）と安藤幸雄前学生部学生課長が、この三月に退官されました。

## 岐阜大学における国際交流 -この三年を顧みて-

前国際交流委員会委員長 菅原光穂

創成期の頃はどうかであったかわからない。人はそれを「家内工業的」という。国際交流に大変熱心な人たち数人によって事がどんどん進められ、他の人々の追従を許さなかった状態を指すものらしい。しかし、初期はそうせざるを得なかったと思われる。私が世話になったこの三年間は、形（組織）こそ創成期のそれであったが、取り扱う内容は膨大となり、しかも木目細かな配慮を必要とする複雑な仕事の連続であった。

その複雑なものの一つ。国際交流委員会は学長の委嘱を受けてその仕事をやることになっているが、実際にはその「委嘱」というものがはっきりしない。そのため委員会と学長（及び評議会）との間が密にならな

いことが多かった。丁度私が委員長になった年、かねて懸案であったソウル産業大学及び浙江省科学基金会との学術交流の是非を決定することとなった。後者についてはもう少し様子を見ることとしたが、前者については長い間期待されてきたものだけに交流協定に踏み込むこととなった。ソウル産業大学からも代表者が見え、こちらからも工学部の田中敏雄教授と私が出向き、協定書の内容を十分煮つめる迄になった。愈々国際交流委員会でゴーサインが出て評議会へ上げることとした。勿論事前に各学部へは委員を通じてご検討願っていた。しかし委員会と学長・局長との接触が必らずしもうまくとれるような機構になっていなかったせい

か当時の局長から思いもかけない反応と対応をとられてしまい大変困った事になってしまった。委員長として勇敢に反論したり、積極的に対応したりすべきであったが、波風を立てずの方針をくずさずじっくりと事を運んでいった。しかし評価は如何であろうか。研究者交流はソウル産業大学とが今一番活発である。

さらに木目細かな配慮を必要としたものは奨学寄附金のお願いであった。景気の後退期ということもあって会社の責任者の方々は、私の顔を見るのにそう楽しい顔付きはなされなかった。しかし、こちら側にも問題はあつた。広報を常々きちんとして、載いた奨学寄附金が、何時何処でどのように使用され役に立っているかを一目瞭然としたパンフレットの作成など急務であつた筈である。これなども怠慢と組織の不備から不行届も甚しい。幸い奨学寄附金のお願いの中にも嬉しい気持の良いこともあつた。昨年岐阜車体工業を訪れたとき、予想に反して暖かい言葉と多額の寄附金を頂戴した。「景気に左右されるのは会社の経営であつて、留学生の勉学生活ではない。今迄通り寄附させて頂きます。」のお言葉と共に100万円いただいた。お見事の一語につきる。

仕事の量で参ってしまったのは、厩大な手紙類、連絡事項の処理である。すべて英文なのはよいが、中には大変なものもある。ソウル産業大学の留学生が最初にやって来た時、単位や成績のことで学期の期間が異なるために生じた問題の打解を計るやりとりなどがその最たるものであつた。

幸いうまく事が運ばれたが、我ながら英文の修業をさせられたと思う。生きた英作文練習であつた。この



ノーザン・ケンタッキー大学で、加藤晃学長（左端）、堀内孝次国際交流室長（右端）とともに

種の事務作業というか渉外というか、日増しにその量が増加しているのは事実である。「好き」だけではやれない何かがある。

私の思う所では、今後大学における重要な目玉の一つが国際交流にある。将来は「別学長」的な立場の人を揃えて、委員会及び事務機構を整備し、有能な外国語（3ヶ国語ぐらい）にも堪能な事務官及び秘書を配置し万全を期す方向が必要と思われる。二・三人の好きな人達の同好会ではない。全学一体になる必要もある。学長、評議会の意志が十分伝わるような組織の改変も望まれる。

3年間お世話になって、あれやこれやと思う次第である。私事で、停年退官に至る前の退職となつたが、岐阜大学の国際交流活動に明るい前途があることを心から願うと共に、お世話になった人々へ心からお礼申し上げる。

岐阜大学の国際交流萬歳！

1994年3月30日 桜のつぼみの下で

## 留学生交流の現状と方策



留学生交流は、我が国と諸外国相互の教育・研究水準の向上と、相互理解や友好の増進に寄与するとともに、その人材育成に協力するなど極めて重要な意義をもっています。我が国の大学などに学ぶ外

前学生部学生課長 安藤幸雄

国人留学生の受入れは近年増加してきており、本学も例外でなく10年前と比較すると年平均57%の伸びで、平成5年度には178人に達し、本省のいわゆる「留学生受入れ10万人計画」で想定した受入れと同様に、本学も留学生受入れが入学定員の10%520人という目標達成のために、学内の諸施策の充実に努めていかなければならないと思います。

留学生が日本で勉学生活を送る場合、同時に受入れ大学や地域社会等において様々な社会的かかわりを持つことは、施策が効果をもつ上で最も重要な要素であります。

大学で現在困っているのは、留学生の宿舎の確保です。良質な住まいが確保されることは充実した留学生生活を送る上での基礎となるものです。宿舎対策としては、公営住宅等への入居促進、企業の社宅、学寮への入寮及び留学生宿舎への入居等があります。公営住宅及び企業の社宅への入居等については、岐阜地域留学生交流推進協議会を通じて事業を展開しています。これらは、大学等を含む地域全体としても留学生の受入れを自らの課題として、積極的な幅広い支援活動を展開することが期待されています。

私は、平成4年にアメリカのノーザンケンタッキー大学に出張する機会を得ました。本学では、毎年協定大学へ本学学生が派遣され、外国での英語研修をはじ

め、学生生活を体験してきています。この年はノーザンケンタッキー大学へは24人の学生が短期留学し、一緒に加藤学長、菅原国際交流委員会委員長、堀内国際交流室長そして私の4人、総勢28人で成田から出発しました。目的地に着くと空港では、ノーザンケンタッキー大学のバスを仕立ててのお出迎えであった。現地での状況等の詳しいことはNewsletter 16号で掲載済みですが、事務官として国際交流を担当しているひとりとして、外国との交流をしていく上でやはり来て、見て、人に逢って話し合っただけというのでは実感ありません。

本学では、大学における留学生に関する今後の方策として、行政、ボランティア団体、本学等の相互の連携と、地域住民の方々たちに、学生交流、あるいは国際的な視野を広げるという意味での理解促進のための取組が必要になってきているのだと思います。

### 【特集】留学生と国際交流室

本年度も岐阜大学は世界の国々から新しい留学生、研究生を迎え、国際交流室の一年も始まりました。在籍する留学生が二百名に達しようとしている今、国際交流室は留学生にとってどのような存在であり、また今後はどうあるべきなのでしょう。交流室事務と日本語教育という留学生サポートの現場から、その活動を報告いたします。

## 架け橋作ります

学生部学生課国際交流事務室国際交流係 大崎 松美

海外から一生懸命に勉強をし、学ぶ為に来ている留学生を精神的な面だけでも（出来ることなら物理的にも）サポートしてあげ、せっかく何かの縁で留学先として来た日本だから、勉学的な面だけでなく精神的にも生活的にも自分自身を十分に表現し、互いに影響しあいながら過ごして帰って欲しい、そしてその留学生達が将来それぞれの国で活躍し、少しずつではあってもその国が色々な意味で進歩し、発展し、ひいては世界中が互いに良い方向へ向かって行くのは本当に素晴らしい事だと考えます。

今の時点で私が感じている岐阜大学の国際交流に関する最低限の希望を述べたいと思います。

(1) 留学生を孤立化させたくない

(2) その為に、沢山の架け橋／きっかけを作っておける（留学生と日本人学生、留学生と地域市民、留学生と留学生、等）

(3) そして大学にとって、地域にとって、留学生にとっても互いにプラスになる還元

「国際交流室の活動・行事」はまさにこの(2)の架け橋にあたるべき大切な部分だと思うのです。

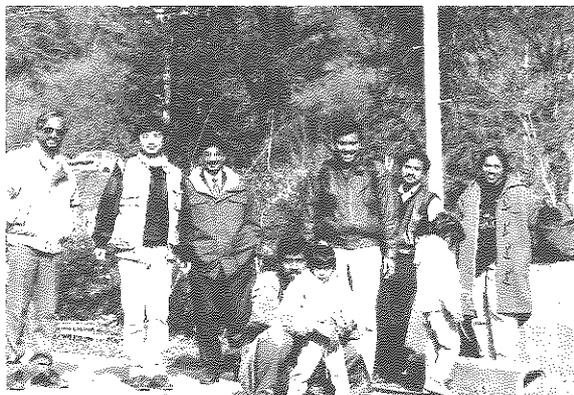
現在、国際交流室が行っている主な行事・活動は、4月の国際交流室オリエンテーションに始まり、外国語（英語、中国語、ポルトガル語）・日本語教育、国際理解の集い、ニューズレターの発行、夏期短期留学受入れ（スウェーデン・ルンド大学、アメリカ・ノーザンケンタッキー大学）、留学生レクリエーション等

で、3月の帰国留学生の為のフェアウェルパーティ及びホームステイファミリーとの懇談会で締めくくられます。

国際交流の行事、その他を通じて常に思う事は、イベント化された国際交流や行事はやりたくないという事です。留学生がどのような事をどこまで求めているか等を十分把握し、それをもとに討論を重ね、形作りをし、前記(2)にあたるどのような架け橋が必要なのかを検討した上で架け橋を作ってあげる、その国の観光紹介にとどまらない一歩踏み込んだ討論会等へとつながり、そのうち留学生からの自発的活動(一方的で

はない)等へと導いてゆければ、(3)の「大学、地域社会、留学生にとって互いにプラスとなる還元」へとつながってゆくのではないかと考えます。

留学生に自由な空気の中、もっとのびのび、生き生きとして欲しい。日本人学生も、積極的に留学生と意見を交わしあって欲しい。そんな姿、カフェテリアで共に話ながら食事をしている姿、誰とでも挨拶を交わしている姿。こういう光景を夢みつつ、私自身留学生に対しても常にフレキシブルで限りなくフェアな態度を忘れずに、内容のある沢山の架け橋を作って行きたいと思っています。



昨秋、交流室主催の大矢田もみじ狩りにて



筆者は手前右



加藤学長とともに

## 日本語ってどんな言葉ですか? —日本語クラスから—

国際交流室日本語講師 加藤 由紀子

毎学期、日本語クラスの時間割表がニューズレターに載るのですが、その内容がはっきりしないと思われる方も多いかと思いますので、少し説明をさせていただきます。

A I……4月から始まる日本語の知識がまるでないか、ほとんどない学生のための初級コースのことで、週8クラスあります。テキストは『文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ』を使い、前期末までに『Ⅱ』の初めの数課まで進みます。

B II……前年度10月から始まった初級コースの続きで、週7クラスあります。テキストは『文化初級日本語Ⅱ』を使い、前学期の続き（初めから数課進んだところ）からテキストの終りまでです。このコースには前学期から出ていない学生でも、初級の中レベルの日本語能力があると面接で認められれば入ることができます。

A Ⅲ……4月から始まる中級コースのことで、週2クラスあります。学内あるいは学外で初級を終了したと認められる学生のためのコースです。テキストは『中級から学ぶ日本語』を使います。

以上の3コースは連動しており、4月に始まるコースをA、10月に始まるコースをBとしています。どちらからスタートしてもⅠ→Ⅱ→Ⅲと進んでいけるようになっています。これらは柳戸キャンパスで行われております。ただし表を見てお分かりのようにⅠ・Ⅱ

コースはほとんど毎日授業があります。これほど日本語の学習に時間が割けない学生のために、CⅠとCⅡがあります。

CⅠ……日本語の知識がまるでないか、ほとんどない学生のための初級コースで、週2クラスあります。テキストは『しんにほんごのきそⅠ』を使い、テキスト前半を終了します。

CⅡ……CⅠに続く初級コースで、週2クラスあります。テキストは『しんにほんごのきそⅠ』を使い、テキスト後半を終了します。

ここまでは柳戸キャンパスのコースですが、その他に時間的、距離的な理由でこれらのコースに出られない医学部の学生のためのコースが作られています。それがDⅠとDⅡです。

DⅠ……CⅠとほぼ同じ

DⅡ……DⅠとほぼ同じ

ただし、CⅠ・CⅡ・DⅠ・DⅡはその時の学生の状況により、進度やレベルを多少変更することもあり、上記の学習範囲と異なることもあります。

以上が各コースの概要です。コース終了後に成績が出されますが、その成績はスタッフミーティングで出席、学習態度と提出物、及び試験によって決められます。またⅡ・Ⅲのコースの終りにはスピーチテストもありそれも評価されます。ただし、出席が3分の2に満たない学生の成績は出せないことになっています。ここで私達がなぜ出席にこだわるかと言いますと、言語を習得するのに一番大切なことは、継続的学習であ



日本語クラスで

ると考えるからです。また、出たり出なかつたりすると、すぐに分からなくなってしまうと本人が日本語の学習に興味を失ってしまうということにもなり、ひいては他の学生の迷惑にもなり、進度も大幅に変更せざるを得なくなるからです。ということで、コースに出ることに決めた学生にはぜひとも続けてクラスで出てほしいものだと思います。いろいろ書いてきましたが、ご不明の点がございましたら、私共にお尋ねください。

ところで皆様は日本語教育とはどんなものだと思いますか、今日は日本語教育で扱っている事柄をいくつか挙げてみたいと思います。どんな初級のテキストを開いても、初めに挨拶の言葉が出てきます。朝は『おはようございます』、お昼は『こんにちは』、夜は『こんばんは』、寝る時は『おやすみなさい』と教えたと思います。これは正しいのですが、この4つの言葉は同等ではありません。『おはようございます』と『おやすみなさい』は家族の中の人にも外の人にも使えますが、『こんにちは』『こんばんは』は家族には使えません。数詞を教える時に、『コーヒーやラーメンなどは1杯2杯と数えます。』と言ったと思います。『今朝コーヒーを3杯飲みました。』はいいですが、喫茶店に3人で行って3人ともコーヒーを注文したい時、『コーヒー3杯お願いします。』と言うでしょ

うか。レストランや喫茶店での注文には『ひとつ、ふたつ……』を使うが普通ではありませんか。条件節を教えたと思います。学生が質問します。『“薄着をしたら風邪をひきました”という文はいいのに、“薄着をすると風邪をひきました”はどうして正しくないのですか。でも“薄着をすると風邪をひきません”はいいんですね。どうしてですか。』さあ、どうしてですか。『“はい”は“YES”、“いいえ”は“NO”だと思うのですが、だれかが何かを人に渡すときに言う“はい、どうぞ”の“はい”は何ですか。』さあ、何ですか。答えの知りたい方は、日本語のクラスにおいでください。こういう質問を毎日いくつも受けているのが外国人に対する日本語教育の現場です。私達はこんな風に外から日本語を見るおもしろさに魅せられて、約10年日本語教育にかかわってきました。この間、毎週1度の勉強会を続けてきましたが、興味は尽きませんし、まだ分からないこともたくさんあります、と言うよりもっともっと分からないことが出てきました。留学生の質問と彼らの作る誤用文は私達の研究のための宝の山です。

さて、この記事で日本語教育に対するイメージが少しはわきましたでしょうか。そして、もしも『日本語っておもしろいなあ』と少しでも思っていたら嬉しいです。

1994年度前期日本語クラス時間割表（平成6年4月14日～平成6年9月22日）

	月	火	水	木	金
9:00					
1	A I-1 加藤 B II-1 河地	A I-3 六郷 B II-3 後藤	B II-4 後藤 A III-1 加藤	A I-5 及川 B II-5 河地	A I-7 中島 B II-7 加藤 C II-2 後藤
10:30 10:40	A I-2 河地 B II-2 加藤	A I-4 後藤 C I-1 及川 C II-1 六郷		A I-6 河地 B II-6 中島	A I-8 加藤 A III-2 後藤 C I-2 中島
12:10					
13:00					
3	D I-1 六郷*			D II-2 中島*	
14:30 14:40					
4	D II-1 六郷*			D II-2 及川*	
16:10					

\*医学部クラス/医学部にて開講

## 「はじめまして」

昨年度後学期より、国際交流室日本語クラスのスタッフは、新しいメンバーを迎えました。

昨年10月から今年2月迄、医学部のクラスとCのクラスの計2時間の日本語の授業を受け持ちました。以前、ボランティアとしてなら留学生と接した事はありましたが、決められた教材を使っただけの授業は初めての事でした。悪戦苦闘する中で思った事は、日本語を教える事の難しさです。何不自由なく日本語を喋りながら、いかに日本語について知らないかという事でした。ただ楽しいで過ぎたボランティア時代を思い出すと、穴があったら入りたいです。でも反面懐かしくもあります。今年はオープンのクラスにも参加することになりました。先輩の方々に教わりながら、又迷惑もかけながら、少しでも前に進めるよう協力したいと思います。そして前期の終りには、「先生」と呼ばれてもソワソワと居心地の悪い思いをしなくてもすむようになっていたいです。

六郷明美

## 国際交流のための奨学寄附金について

近年、大学における国際交流の必要性が高まってきており、本学でも年々留学生が増え平成6年4月現在で27カ国1地域194名が在学し、勉学にまた研究に邁進しております。

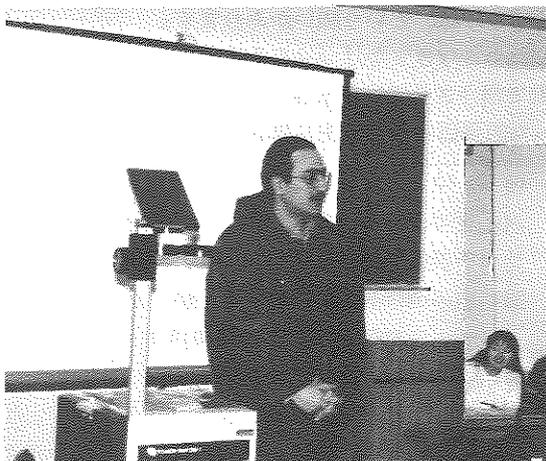
また国際的に開かれた大学として国際活動の強化や国際的視野を持つ人材の育成等を目的として5カ国（アメリカ合衆国、ブラジル、中国、スウェーデン及び韓国）11大学（サンディエゴ・ステート大学、ノーザンケンタッキー大学、カンピーナス大学、浙江大学、広西農学院、電子科技大学、無錫軽工業学院、浙江医科大学、中国医科大学、ルンド大学、ソウル産業大学）との間で学術交流協定を締結しております。

このような国際交流活動を推進するために昭和59年に国際交流室を設置し、留学生に日本語や日本事情等

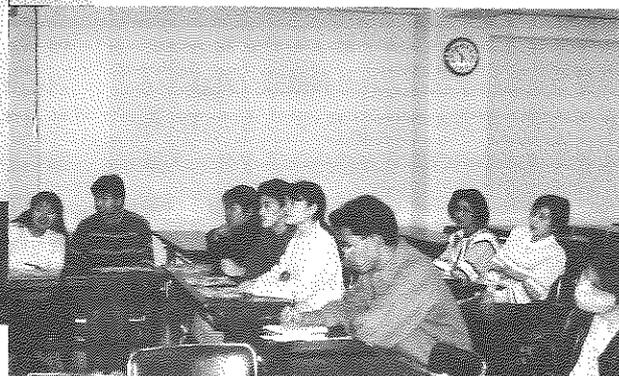
の教育を実施してまいりました。こうした教育や交流活動の一部を企業等による奨学寄附金で運営しております。

平成5年度は次の企業等から御寄付を賜りましたので、ここに厚くお礼を申し上げますとともに、掲載させていただきます。

（株）大垣共立銀行、（株）十六銀行、（株）岐阜瓦斯、（株）大日本土木、財団法人田口福寿会、（株）太平洋工業、（株）イビデン、（株）岐阜車体、（株）中部電力岐阜支店、医療法人東山会長良川病院、（株）杉山鉄工所、（株）日本耐酸壘工業、国際ソロプチミスト岐阜、（株）岐阜信用金庫（順不同）



平成5年度第2回国際理解の集いにて  
サイド・アリ・アザールムサさん（工学研究科）  
による『イランについて』



◎ お知らせ

国際交流室では、本年度も教職員、学生向けの外国語クラス（英語、中国語、ポルトガル語）を開講する予定です。詳細は、国際交流室前ほか、学内に掲示しますので御覧下さい。

ポルトガル語のクラスで



平成6年度 岐阜大学 国際交流室員名簿

任期 \*H5. 4. 1~7. 3. 31  
H6. 4. 1~8. 3. 31

所 属	氏 名	備 考	所 属	氏 名	備 考
農 学 部	堀内孝次	国際交流室長	工 学 部	松浦晃次	イクスカーション担当
教育学部	佐藤昌宏*	ホームステイ担当主 任	農 学 部	金丸義敬*	国際理解教育担当 主 任
教育学部	佐原秀一	日本事情担当	農 学 部	前澤重禮	会 計 担 当
医 学 部	奥野正隆*	医学部関係主任	教養部	永井敦子*	広報担当主任
医 学 部	加藤直樹	医 学 部 関 係	教養部	三浦陽一	日 本 語 担 当
工 学 部	坂本秀生*	学生担当主任	医療技術大 短	瀬戸崎康子*	サマースクール 総 括 担 当 主 任

●編集後記

昼休みの図書館でエルンストの画集を探していたら、横に立っていた人も偶然同じ画集を手にとろうとしていて……といった出会いには憧れますが、ドラマでもない限り、町やキャンパスですれ違う人と友達になるのは難しいようです。食堂で向かいに座っている留学生に勉強のことや国での生活のことを尋ねてみたいと思っても、迷惑でないだろうかと遠慮して話しかけずにいる人も多いのではないのでしょうか。

もしも留学生たちと話し合ったり一緒に何かをする機会があれば、次にキャンパスで出会った時、挨拶したり近況を報告しあったりできるはずです。国際交流室が定期的に行っている国際理解の集いにも、まずお互いに知り合って、そこから自然にコミュニケーションが広がってゆけば、という願いがあります。

研究室やサークルでの活動に限らず、大学内でそうした小さなきっかけづくりをされている方々がありましたら、ぜひ交流室までお知らせください。NEWSLETTERで紹介させていただきたいと思っています。

今号から題字を変えました。作成を手伝ってくださった教養部内田勝先生に感謝いたします。（永井）

発行 岐阜大学国際交流室  
NEWSLETTER 係  
〒501-11 岐阜市柳戸1-1  
☎ (0582) 30-1111  
内線 2380 / 2381  
FAX 0582-30-1108